

書店員 おすすめの本



リブロ福岡天神店店長 野上由人さんおすすめ

小林傳司著『トランス・サイエンスの時代 科学技術と社会をつなぐ』
(NTT出版ライブラリーレゾナント)

科学の言葉を 読み解く



「3・11」以後、原子力や電力の専門家が説明したが、言葉の意味からして分からぬ。そんな状況で社会の中の科学をどう捉えればよいのか。科学者の言葉に対するリテラシー(活用能力)を身につけ、考え方を変える気付きになる書籍。

高度な科学技術は社会の私たちに身近な部分で使われている。だが一般の人は知らずに過ぎたり、関係ないと思つてはいる。例えば原発に問題があると思うてはいたが、分からなかつて考えないようになつたこともある。科学は政治や経済に比べると分かりにくいつもりである。科学として正しいのが、社会にどうて説明している。震災前に出版された書籍だが、原発事故などを経て、いまさらためて読んでとても響く一冊だ。

長い夏休みこそ。。。 大作に挑戦

ブックスキューブリック箱崎店店長 大井実さんおすすめ

増田俊也著『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』(新潮社)

この本は事件

増田俊也著『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』(新潮社)の書評。本文は事件の概要と、その背景や木村政彦の人生について述べられています。

木村政彦は、1917年に熊本県に生まれ、日本柔道史上最強と呼ばれた柔道家です。彼は「負けたら腹を切る」という精神で、戦前から戦後を通して戦い抜いた柔道家として人気が広がっていました。しかし、1954年に力道山と昭和の巣流島を戦った際に、木村は敗れました。引退後、表舞台から姿を消す。木村はなぜ敗れたのか、そして屈辱の中なぜ力道山を殺さなかつたのか。空手家・大山倍達らも登場する。木村の人生を描いた超証言を基に、戦後の武道や格闘技、プロレスの歴史とともに木村の人生を描いた超大作だ。



丸善博多店 安高啓介さんおすすめ

勢古浩爾著『最後の吉本隆明』(筑摩書房)

この本は事件

勢古浩爾著『最後の吉本隆明』(筑摩書房)の書評。本文は吉本隆明の死後最大の思想家とされる吉本隆明の生い立ちからその生き方を紹介している。吉本氏が書いた本は内容が難しい。途中で読むのをやめてしまったという人もいるだろう。そんな人たちに著者勢古さんは自分も実は良く分からなかつたと告じ、「本は読まなくていい。吉本さんの生き方を見よ」と訴える。吉本さんの残した言葉は数多くあるが、吉本さんに引きかかる言葉がほとんどない。しかし吉本さんが「自分も実は暗い人間だけ、そんな人ほど他人の気持ちよく分かる」と述べていたことがあり、大変感動的な記憶がある。特に若い世代に手に取ってほしい一冊だ。



カリスマの 声を聞け



日刊工業新聞で 不況を克服!

どのジャンルに、どの切り口に、
ビジネスチャンスがあるかわからない…。



モノづくり 機械 自動車 ロボット 環境
IT 医療 情報通信 鉄・非鉄・化学・素材
エレクトロニクス 新技術・新製品 食品 人
航空・宇宙 先端・科学技術 建設・住宅
電気・電子部品 造船 産学連携 流通・サービス
中堅・中小・ベンチャー 地域 大学

1週間無料試読、購読のお申し込みは 0120-817120 1ヶ月購読料 4,590円(税込) 土日休刊